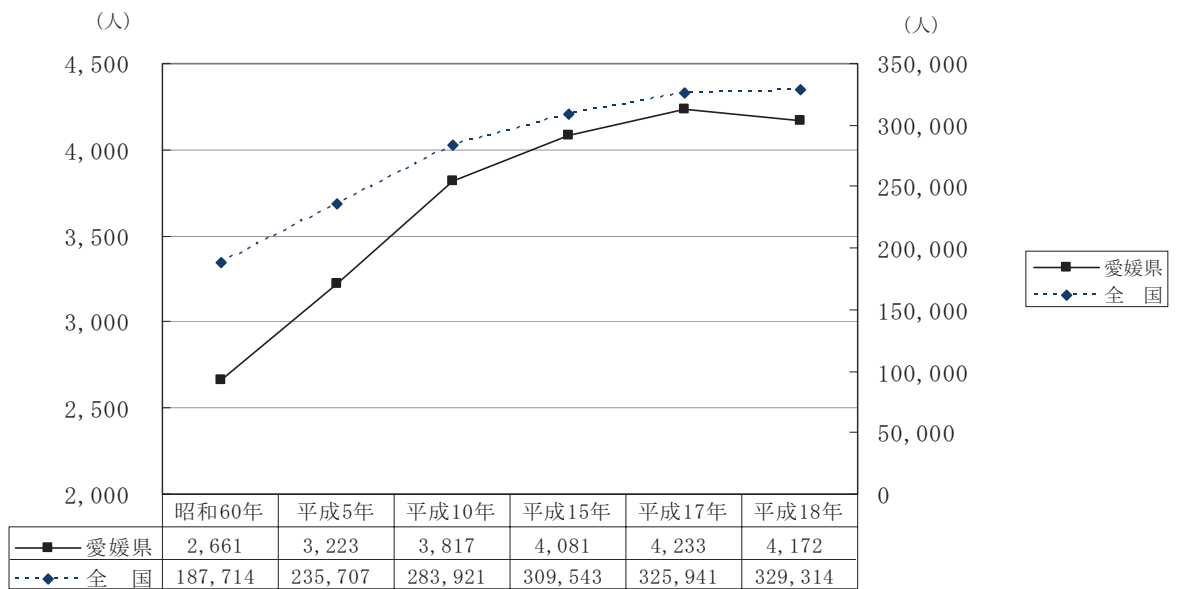


第3 本県の状況

1 死亡の状況

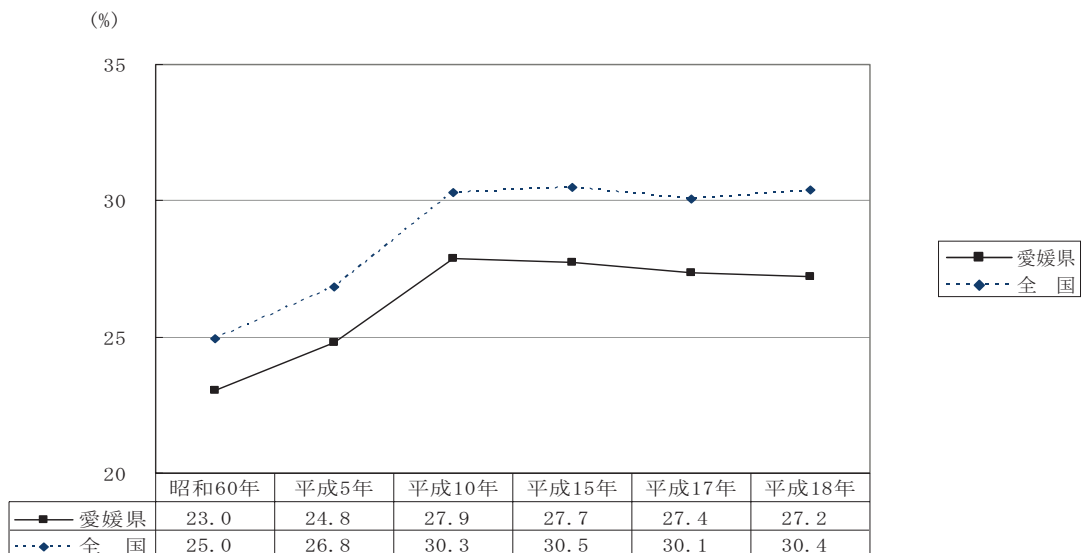
○本県では、昭和56年以来、がんは死亡原因の第1位を占めており、死亡数は昭和60年の2,661人に対し、平成18年には4,172人、全死亡数に占める悪性新生物の割合は昭和60年の23.0%に対し、平成18年には27.2%であり、死亡数、割合ともに増加傾向にある。

悪性新生物の死亡数



人口動態統計

全死亡数に占める悪性新生物の割合



人口動態統計

○がんの年齢階級別の粗死亡率については、全国及び愛媛県とも加齢による死亡率の上昇が顕著であり、40歳ごろから死亡率は高くなっている。また、全国より高齢化が進んだ県では全年齢の粗死亡率は全国平均より高くなっている。

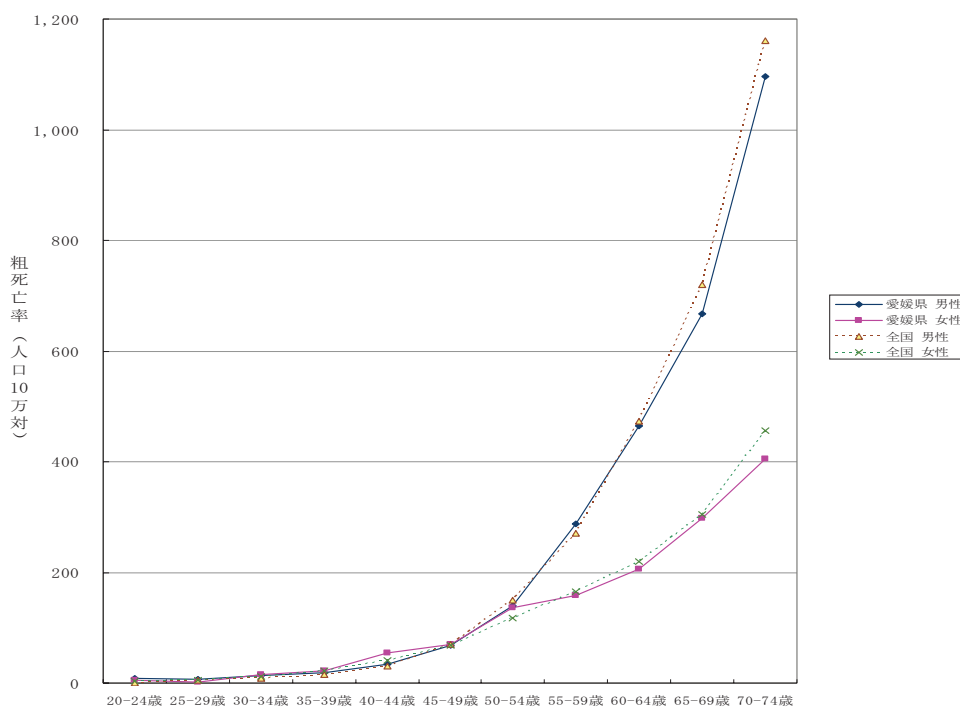
悪性新生物年齢階級別粗死亡率（平成17年）

(実数：人、率：人口10万対)

区 分	愛媛県				全 国			
	男性		女性		男性		女性	
	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
※全年齢	2,476	358.0	1,757	226.4	196,603	315.3	129,338	197.7
0-74歳合計	1,227	195.3	704	105.9	106,575	184.5	57,978	100.1
0-4歳	0	0.0	0	0.0	65	2.3	56	2.1
5-9	1	2.9	0	0.0	77	2.5	43	1.5
10-14	0	0.0	0	0.0	61	2.0	47	1.6
15-19	3	8.0	1	2.8	103	3.1	63	2.0
20-24	3	8.9	0	0.0	163	4.3	121	3.4
25-29	3	7.3	1	2.4	216	5.1	207	5.1
30-34	7	14.5	8	16.1	401	8.1	582	12.1
35-39	8	19.3	10	22.7	689	15.6	981	22.6
40-44	14	33.5	24	53.6	1,234	30.4	1,625	40.5
45-49	30	67.7	33	70.3	2,727	70.5	2,646	68.6
50-54	72	139.7	74	136.0	6,562	149.7	5,202	117.9
55-59	174	288.3	100	159.1	13,771	271.2	8,526	164.7
60-64	214	464.2	106	205.2	19,672	473.5	9,650	219.8
65-69	272	667.9	145	297.2	25,537	720.4	11,833	304.4
70-74	426	1,096.6	202	405.7	35,297	1,161.2	16,396	455.7

人口動態統計及び国立がんセンター情報センターHPより
※全年齢には年齢不詳を含む

※粗死亡率：死亡者数を人口で除したもの。



○年齢構成を調整した年齢調整死亡率※（p10参照）を時系列で見ると、愛媛県では男女ともに昭和40年までは全国よりやや高くなっているが、昭和45年以降は、全国よりも低い状態で推移している。

全国・愛媛県ともに男性は平成7年まで上昇し、その後低下している。一方女性は、愛媛県では昭和40年132.3がピークであり、全国では昭和35年から低下している。

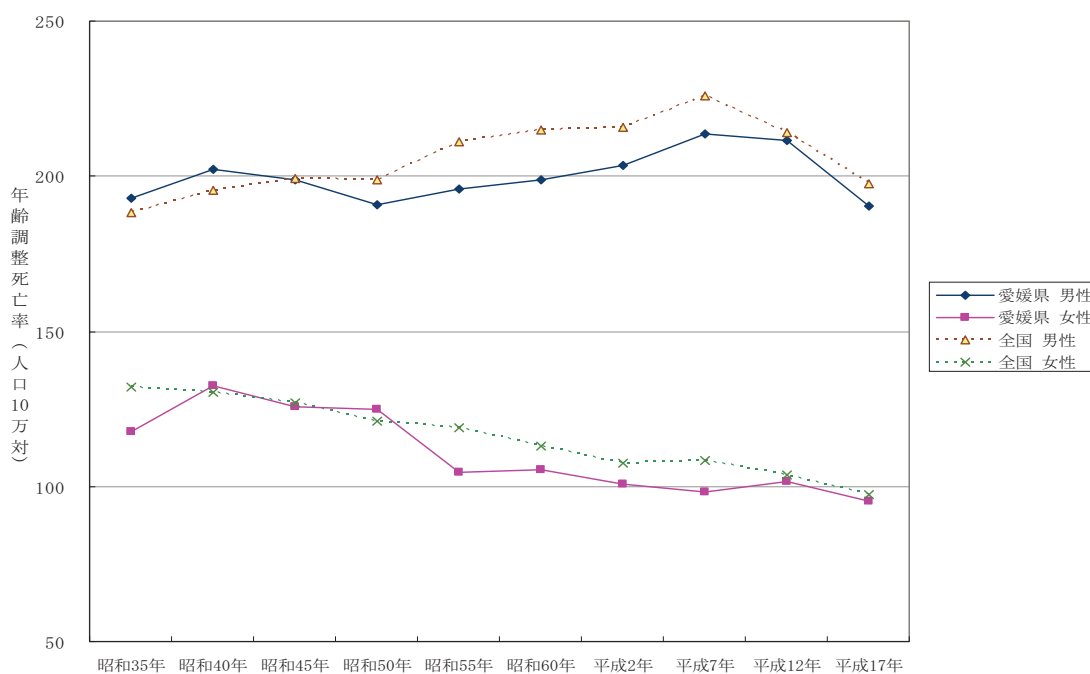
悪性新生物の年齢調整死亡率年次推移

(人口10万対)

区 分	愛媛県		全国	
	男性	女性	男性	女性
昭和 35年	193.0	117.8	188.2	132.0
40年	202.4	132.3	195.6	130.3
45年	199.0	125.6	199.2	126.9
50年	190.6	124.7	198.9	121.1
55年	196.0	104.4	210.9	118.8
60年	198.8	105.3	214.8	113.1
平成 2年	203.4	100.9	215.6	107.7
7年	213.7	98.1	226.1	108.3
12年	211.4	101.5	214.0	103.5
17年	190.2	95.1	197.7	97.3
※ (75歳未満)	119.4	64.7	122.1	65.6

(平成17年人口動態統計特殊報告)

※75歳未満は国立がんセンター情報センターHPより



悪性新生物による死亡数（男性）

（死亡数：人、割合：％）

	平成12年			平成17年			
	全 国 死亡数	愛媛県		全 国 死亡数	愛媛県		
		死亡数	割 合		死亡数	割 合	
悪性新生物	179,140	2,380	100.0	196,603	2,476	100.0	
主 な 部 位 別	食道	8,706	68	2.9	9,465	80	3.2
	胃	32,798	453	19.0	32,643	411	16.6
	大腸	19,868	241	10.1	22,146	217	8.8
	結腸	12,139	149	6.3	13,436	140	5.7
	直腸S状結腸移行部 及び直腸	7,729	92	3.9	8,710	77	3.1
	肝及び肝内胆管	23,602	412	17.3	23,203	356	14.4
	胆のう及びその他の胆道	6,913	96	4.0	7,845	112	4.5
	膵	10,380	130	5.5	12,284	172	6.9
	気管、気管支及び肺	39,053	524	22.0	45,189	575	23.2
	乳房	77	-	-	87	-	-
	子宮
	卵巣
	前立腺	7,514	93	3.9	9,265	133	5.4
	膀胱	3,184	41	1.7	4,141	49	2.0
	悪性リンパ腫	4,578	68	2.9	4,829	90	3.6
白血病	3,970	51	2.1	4,311	61	2.5	

悪性新生物による死亡数（女性）

（死亡数：人、割合：％）

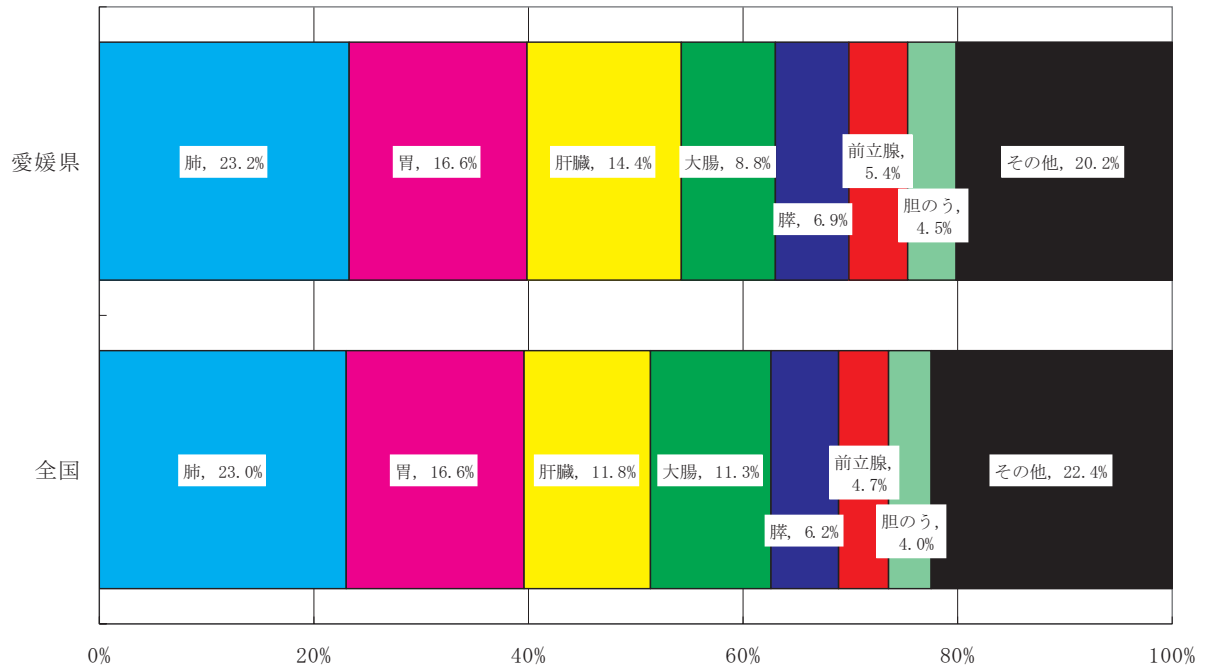
	平成12年			平成17年			
	全 国 死亡数	愛媛県		全 国 死亡数	愛媛県		
		死亡数	割 合		死亡数	割 合	
悪性新生物	116,344	1,599	100.0	129,338	1,757	100.0	
主 な 部 位 別	食道	1,550	15	0.9	1,717	22	1.3
	胃	17,852	258	16.1	17,668	254	14.5
	大腸	16,080	194	12.1	18,684	231	13.1
	結腸	11,498	129	8.1	13,685	165	9.4
	直腸S状結腸移行部 及び直腸	4,582	65	4.1	4,999	66	3.8
	肝及び肝内胆管	10,379	167	10.4	11,065	191	10.9
	胆のう及びその他の胆道	8,240	98	6.1	8,741	118	6.7
	膵	8,714	119	7.4	10,643	124	7.1
	気管、気管支及び肺	14,671	223	13.9	16,874	237	13.5
	乳房	9,171	119	7.4	10,721	132	7.5
	子宮	5,202	86	5.4	5,381	70	4.0
	卵巣	3,993	53	3.3	4,467	54	3.1
	前立腺
	膀胱	1,496	15	0.9	1,888	18	1.0
	悪性リンパ腫	3,340	62	3.9	3,708	60	3.4
白血病	2,796	40	2.5	2,972	40	2.3	

（人口動態統計）

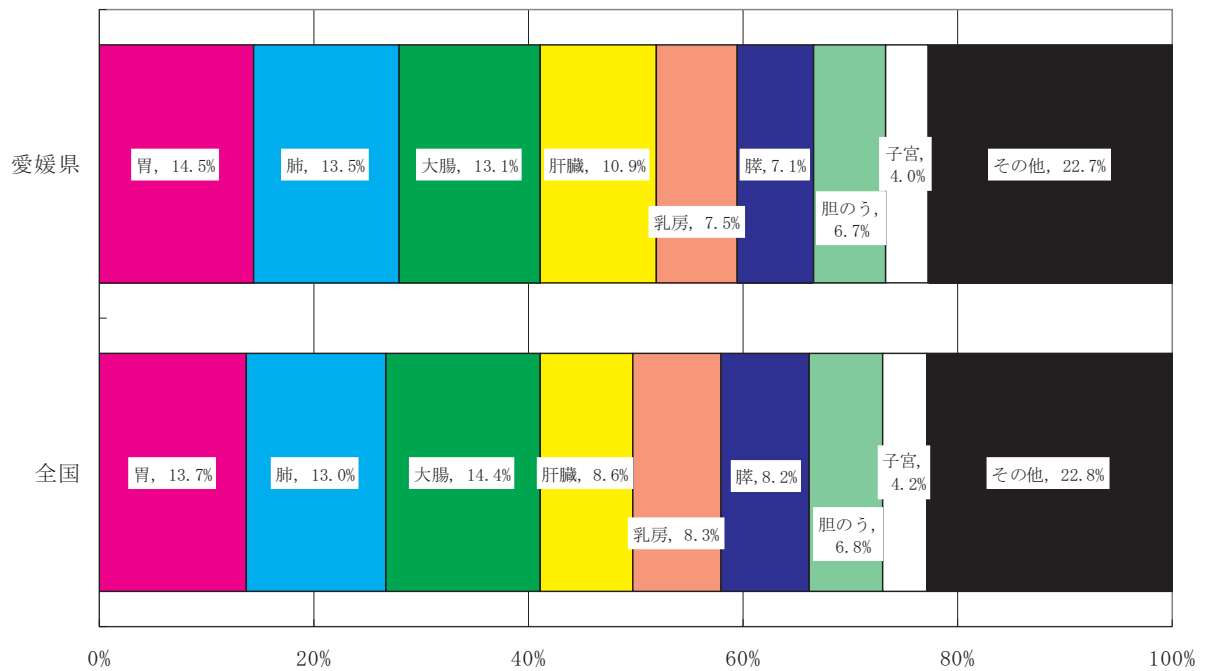
※割合は、悪性新生物に占める部位別死亡数の割合を表している

悪性新生物に占める部位別死亡数の割合（平成17年）

男性



女性



悪性新生物の年齢調整死亡率（男性）

		平成12年			平成17年		
		年齢調整死亡率（人口10万対）		全国順位 （低率順）	年齢調整死亡率（人口10万対）		全国順位 （低率順）
		全 国	愛媛県		全 国	愛媛県	
悪性新生物		214.0	211.4	26	197.7	190.2	18
主 な 部 位 別	食道	10.4	6.0	1	9.7	7.2	8
	胃	39.1	40.2	29	32.7	31.2	16
	大腸	23.7	20.9	12	22.4	16.8	1
	結腸	14.4	12.8	12	13.4	10.8	7
	直腸S状結腸移行部 及び直腸	9.3	8.1	11	9.0	6.0	1
	肝及び肝内胆管	28.2	38.7	43	23.7	29.0	36
	胆のう及びその他の胆道	8.2	8.2	23	7.6	7.9	30
	膵	12.4	11.6	11	12.6	13.7	40
	気管、気管支及び肺	46.3	45.3	18	44.6	42.5	16
	乳房
	子宮
	卵巣
	前立腺	8.6	7.0	5	8.5	8.7	27
	膀胱	3.7	3.3	10	3.9	3.3	5
	悪性リンパ腫	5.6	6.1	33	4.9	7.3	46
白血病	5.2	5.0	23	4.8	4.8	29	

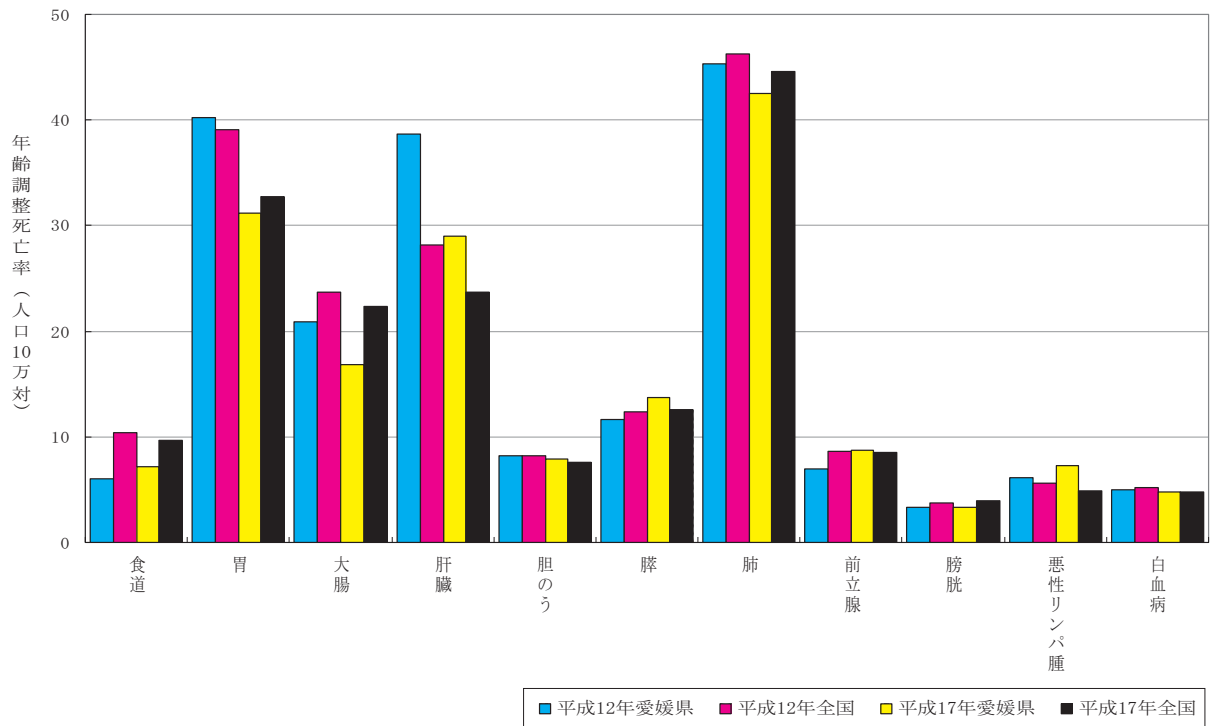
悪性新生物の年齢調整死亡率（女性）

		平成12年			平成17年		
		年齢調整死亡率（人口10万対）		全国順位 （低率順）	年齢調整死亡率（人口10万対）		全国順位 （低率順）
		全 国	愛媛県		全 国	愛媛県	
悪性新生物		103.5	101.5	27	97.3	95.1	21
主 な 部 位 別	食道	1.3	0.9	8	1.3	1.2	22
	胃	15.3	15.5	26	12.5	13.7	36
	大腸	13.6	12.0	13	13.2	11.9	13
	結腸	9.5	7.9	6	9.3	7.6	6
	直腸S状結腸移行部 及び直腸	4.1	4.1	25	3.8	4.2	38
	肝及び肝内胆管	8.8	9.7	34	7.7	9.1	39
	胆のう及びその他の胆道	6.3	4.9	4	5.4	5.0	12
	膵	7.2	6.4	10	7.5	6.3	5
	気管、気管支及び肺	12.3	13.0	35	11.7	10.8	21
	乳房	10.7	11.0	36	11.4	11.0	25
	子宮	5.3	6.6	45	5.1	4.2	10
	卵巣	4.3	4.1	27	4.4	4.2	22
	前立腺
	膀胱	1.0	0.7	3	1.0	0.6	1
	悪性リンパ腫	3.0	3.9	44	2.7	3.6	44
白血病	3.0	3.3	32	2.6	2.4	17	

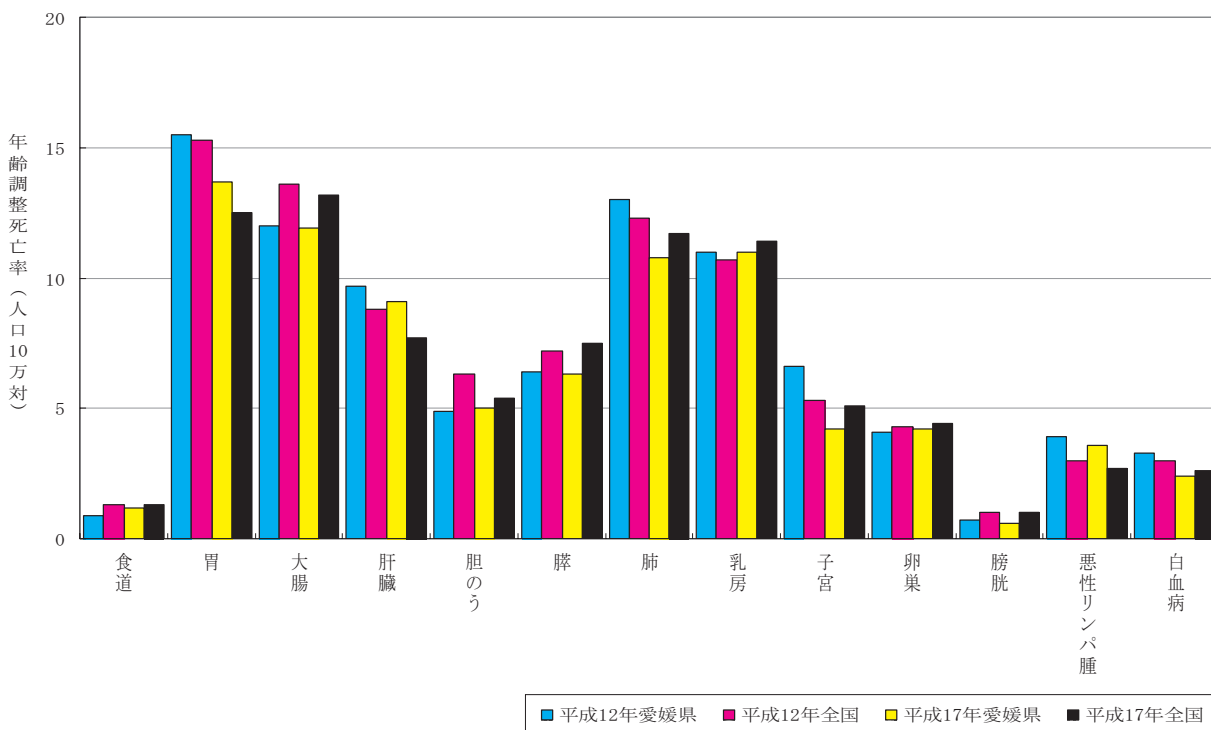
（人口動態統計特殊報告）

悪性新生物（部位別）の年齢調整死亡率

男性



女性



○男性の年齢調整死亡率を、平成12年と平成17年で比較すると、211.4から190.2と低下し、全国順位（死亡率の低い順）は、26位から18位へと改善している。

部位別では、平成12年と平成17年で全国順位を比較してみると、胃（29位→16位）、大腸（12位→1位）と改善しているが、食道（1位→8位）、膵臓（11位→40位）、前立腺（5位→27位）と悪くなっている。

○女性の年齢調整死亡率では、平成12年101.5から、平成17年95.1と低下し、全国順位も27位から21位へと改善している。

部位別の全国順位では、子宮（45位→10位）、肺（35位→21位）、卵巣（27位→22位）と改善しているが、食道（8位→22位）、胃（26位→36位）、直腸（25位→38位）と悪くなっている。

※年齢調整死亡率：年齢構成の異なる集団等の中で死亡状況の比較ができるように年齢構成を調整し、そろえた死亡率。年齢調整死亡率を用いることにより、より正確に地域比較や年次比較をすることができる。

2 患者の状況

総患者数(p2参照)により、患者の状況を見ると、悪性新生物のために治療を受けている人数は、全国では、平成17年が142万3千人であるが、愛媛は、平成14年、17年ともに1万6千人と推計されている。部位別では、「その他」を除くと、胃がんが3千人と最も多く、次いで肺がん、乳がんの2千人となっている。

3 検診受診の状況

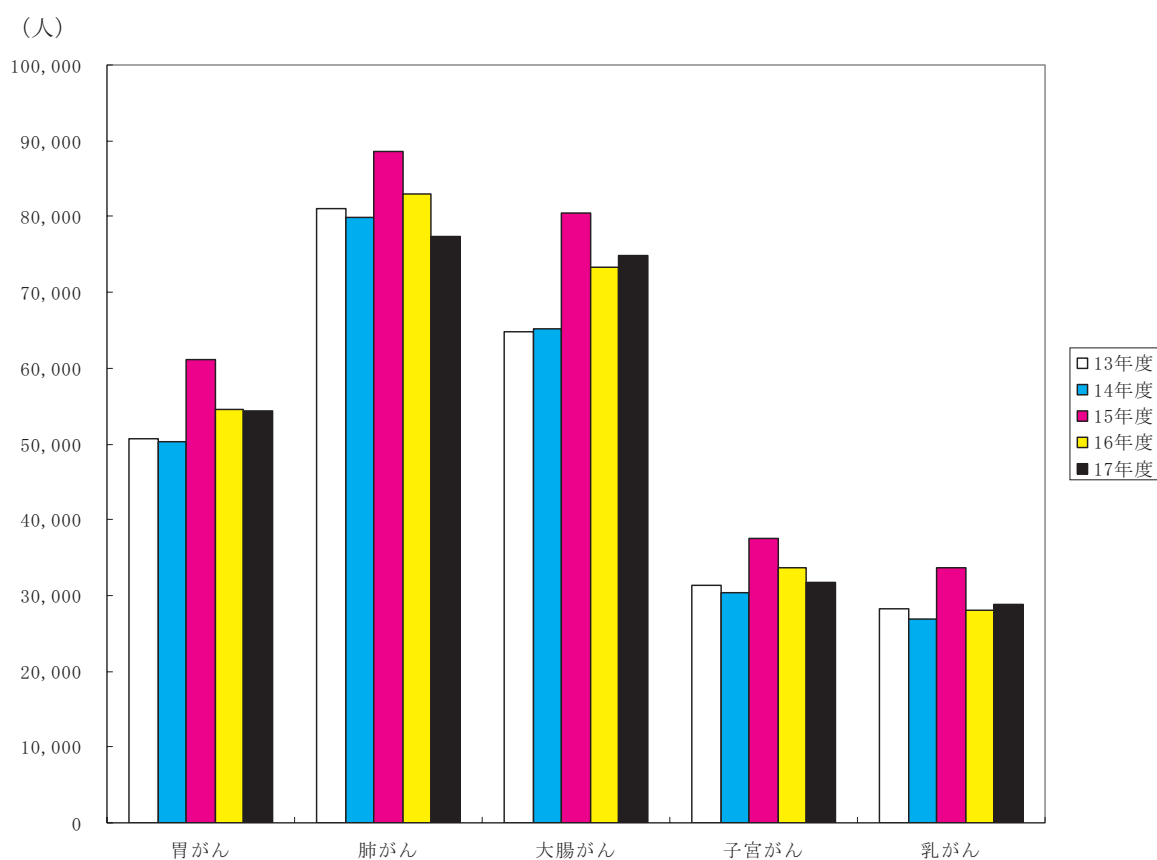
○がん検診（※ここでは、市町が実施するがん検診について記載）の受診者数は、胃、肺、大腸、子宮、乳房ともに、平成15年度をピークに減少している。

がん検診受診者数

(単位：人)

年度	胃がん	肺がん	大腸がん	子宮がん	乳がん
13	50,674	81,123	64,791	31,344	28,207
14	50,221	79,874	65,264	30,411	26,969
15	61,046	88,672	80,414	37,586	33,719
16	54,535	83,048	73,284	33,645	28,006
17	54,389	77,345	74,938	31,743	28,912

(地域保健・老人保健事業報告)



○がん検診の受診率は、胃がん、大腸がんは全国中位であるが、肺がん、子宮がん、乳がんは、中位から低位で推移している。なお、乳がんについては、平成17年に受診率、全国順位ともに大きく改善している。

がん検診受診率

年度	胃がん	順位	肺がん	順位	大腸がん	順位
13	18.1	20	28.2	31	22.4	18
14	18.2	21	28.2	29	23.0	16
15	17.4	18	24.8	32	22.4	20
16	16.3	19	24.5	31	21.7	20
17	14.0	24	19.6	33	19.0	25

年度	子宮がん	順位	乳がん	順位
13	15.4	31	13.7	32
14	15.3	30	13.4	33
15	12.7	39	11.3	34
16	11.4	41	10.2	34
17	16.7	38	20.2	26

(地域保健・老人保健事業報告)

○がん検診を受診した後の精密検査の未受診率については、乳がんは、一貫して10%未満となっているが、他のがんは10%を大きく上回り、特に大腸がんでは25%を超えている。時系列で見ても、未受診率は上昇傾向にある。

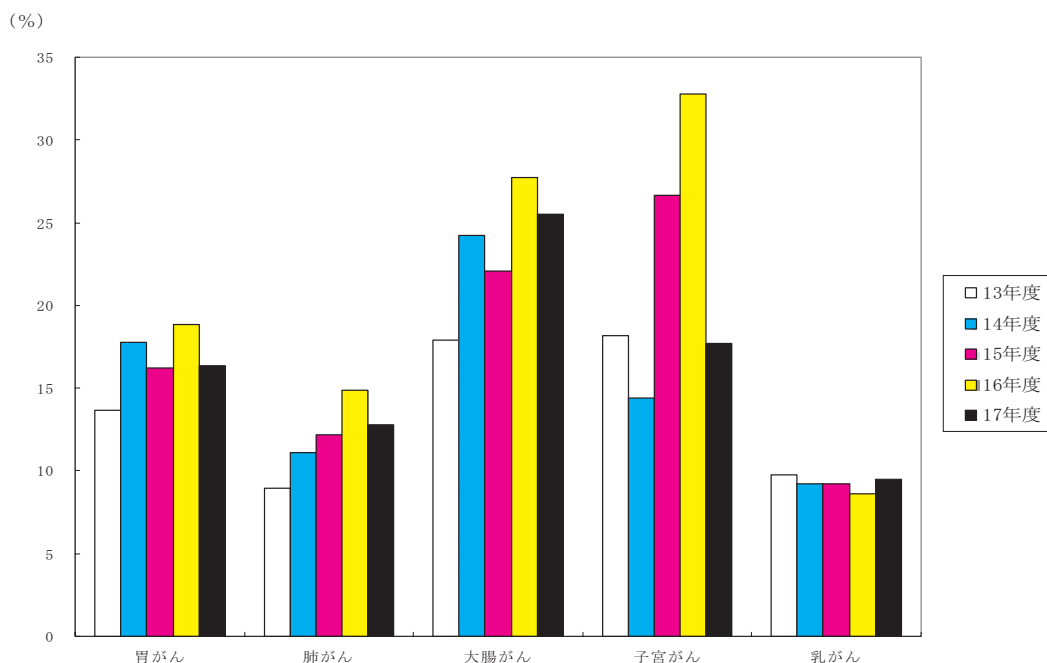
がん検診精密検査未受診率

(単位：%)

年度	胃がん	肺がん	大腸がん	子宮がん	乳がん
13	13.7	9.0	17.9	18.2	9.8
14	17.8	11.1	24.2	※14.4	9.2
15	16.2	12.2	22.1	26.7	9.2
16	18.9	14.8	27.8	32.8	8.6
17	16.4	12.8	25.5	17.7	9.5

※子宮がんの14年度分については、「地域保健・老人保健事業報告」の数値に誤りが認められるため、愛媛県生活習慣病予防協議会子宮がん部会の集計数値を用いている。

(地域保健・老人保健事業報告より算出)



4 がん診療連携拠点病院の整備状況

がん診療連携拠点病院は、どこでも適切ながん医療が受けられるよう、全国で整備が進められているものであり、本県では、平成19年現在で、次の7病院が指定されている。

これらの病院では、地域の病院・診療所等と機能分担し、相互に連携を図りながら、最新の治療や緩和ケアなど専門的ながん医療の提供はもとより、患者や家族に対する情報提供・相談支援、医療従事者の研修等を行い、地域のがん医療水準の引き上げを行うことが期待されている。

[都道府県がん診療連携拠点病院]

対象地域	医療機関名
全県	四国がんセンター

[地域がん診療連携拠点病院]

対象地域	医療機関名
宇摩圏域 新居浜・西条圏域	住友別子病院
今治圏域	済生会今治病院
松山圏域 八幡浜・大洲圏域	愛媛大学医学部附属病院 県立中央病院 松山赤十字病院
宇和島圏域	市立宇和島病院

[参考]

○がん診療連携拠点病院の指定

がん診療連携拠点病院は、知事が推薦し、厚生労働大臣が指定するものであり、次の2種類がある。指定は、4年ごとの更新制である。

- ・地域がん診療連携拠点病院 二次医療圏に1か所程度整備
- ・都道府県がん診療連携拠点病院 都道府県に概ね1か所整備

○主な指定要件

- ・わが国に多いがんについて、集学的治療等（緩和ケアを含む）を行う体制を有すること。
- ・地域の医療機関への診療支援や連携の体制を有すること。
- ・専門的ながん医療に携わる医師、コメディカルスタッフが配置されていること。
- ・集中治療室等の専門的治療室を有することが望ましい。
- ・地域のかかりつけ医等を対象とする研修等を実施すること。
- ・住民・患者を対象とする相談支援機能を有すること。
- ・院内がん登録を実施するとともに、地域がん登録事業に協力すること。